

平成19年度の決算状況

【表4】平成19年度一般会計決算の歳出内訳（前年度比較）

費目	平成19年度	平成18年度	増減
総務費	11.4億円	9.6億円	1.8億円
民生費	54.0億円	52.0億円	2.0億円
衛生費	11.1億円	11.9億円	△0.8億円
商工費	1.9億円	2.2億円	△0.3億円
土木費	16.9億円	19.9億円	△3.0億円
消防費	1.0億円	0.8億円	0.2億円
教育費	8.3億円	9.7億円	△1.4億円
公債費	35.9億円	31.3億円	4.6億円
給与費	43.7億円	42.7億円	1.0億円
その他	2.7億円	5.1億円	△2.4億円
合計	186.9億円	185.2億円	1.7億円

ル敷設やデータセンターの建設、システム構築に係る経費の負担などを行いました。

民生費では、生活保護費の支給や医療費の助成を引き続き行ったほか、平成18年度から施行された『障害者自立支援法』の趣旨に沿って障害福祉事業の充実に努めるとともに、市内で開催された全道肢体不自由児者福祉大会の経費を助成しました。

また、幌別東保育所や富士児童館屋根の改修など児童施設を整備したほか、美園57号線歩道の新設などを行いました。

衛生費では、富浦墓地排水設備の改良や亀田霊園の法面改良などを実施しました。

土木費では、道路の新設・改良事業や亀田記念公園整備事業、キウシト湿原緑地保全事業、市営住宅（幌別東団地）建替事業を引き続き実施

しました。

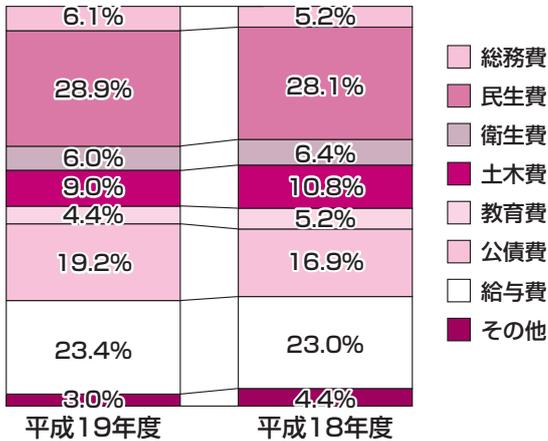
消防費では、消防署配置の高規格救急自動車の更新や救命率の向上と応急手当の知識と技術の普及啓発を図るための自動体外式除細動器（AED）の購入、消火栓の新設・更新など行いました。

教育費では、のぼりべつ文化交流館を昨年6月から開館・運営し、展示用備品などを整備したほか、教育施設水洗化や登別中学校暖房設備の整備などを行いました。

公債費は、6歳で詳しく説明します。

給与費は、職員の新規採用の抑制や市独自の給与カットを継続するなど人件費の縮減に努めました。職員退職者数が増加（平成19年度職員退職者数29人）したことにより退職手当額が増えたため、約1億円増加しました。

【グラフ3】一般会計歳出決算全体に占める割合



【給与カットの概要】

◎特別職、教育長の給与のカット

【給料】平成19年9月まで 市長10% 副市長7% 教育長7%
平成19年10月から 市長20% 副市長15% 教育長12%

【期末手当】平成19年9月まで 削減後の月額給料を基に算出
さらに6月期末手当を減額

【退職手当】平成19年9月まで 削減後の月額給料を基に算出
平成19年10月から 市長20% 副市長10% 教育長10%

◎一般職の給与のカット

【給料】平成19年9月まで 管理職4.2% 主査職以下3.2%
平成19年10月から 管理職6% 主査職以下5%

【期末・勤勉手当】平成19年9月まで 4.7%

【退職手当】 4.7%を継続

財公用語解説 ③

【目的別歳出】

- 議会費：議会の活動に使われる費用。
- 総務費：全般的な管理事務、徴税、選挙などに要する費用。
- 民生費：市民の生活と社会生活の保障（社会福祉など）に使われる費用。
- 衛生費：病気の予防やごみの処理など、市民が健康で衛生的な生活を送るために使われる費用。
- 労働費：職業訓練の充実や失業対策などに使われる費用。
- 農林水産業費：農業や漁業、林業の振興に使われる費用。
- 商工費：商業や工業の振興、観光事業などに使われる費用。
- 土木費：道路や公園の整備、市営住宅の建設などに使われる費用。
- 消防費：消火活動や救急救命などに使われる費用。
- 教育費：小・中学校の運営や学校建設、生涯教育、スポーツの振興など、教育のために使われる費用。
- 公債費：道路や学校などを造るために借り入れたお金の返済に充てる費用。
- 給与費：人件費などに要する費用。